寄稿

巌谷小波日記　翻刻と注釈
――明治三十九年（一月～四月）――

小波日記研究会

《まえがき》

ここに翻刻する巌谷小波の資料は、明治三十九年「当用日記」の一月一日から四月三十日までである。翻刻にあたっては、原則として削除された箇所は省き、削除されていない文字は翻刻するように努めた。また、解読できない文字は「■」で表し、別字の可能性もある場合はルビで「?」を付した。特記すべき点があれば、各日の末尾に注で示した。〔四方拝〕等は「当用日記」に印刷されている文字である。

なお、今回の翻刻及び注釈には、本学大学院生及び修了生（国語国文学専攻）の協力を得た。記して謝意を表したい。

令和五年十一月十五日

猪狩　友一
木村八重子
竹田　修
中川理恵子
（五十音順）

《本文》

明治三十九年　当用日記

一月一日（月）　午前快晴　后陰晴

〔四方拝〕

于時住高輪南町　於新居迎新年
元気　清爽　但し喪中欠礼
午後　三時辻氏三直を伴ひ来る　又黒田来
夕方　勇、三一、三四と　海岸まで散歩
夜　双六　かるたなど
午前久々油筆にて西村依頼匣蓋に春駒を写す
【一行あき】
移住で海の邊の初日かな
生れ得て海国に拝す初日かな

〔入〕　＊47，00

【注】＊47，00…入金元の記載なし。前年の繰越しか。

一月二日（火）　快晴

午前在宿
午後十二時四十分發　土手三番町年賀（汽車にて）勇、
三一、三四、鉒二郎、小夜同行　金太郎居合
それより　日下部、辻氏 歴賀　弁慶橋より
電車にて帰る　車中青木磐雄氏に會す
五時帰、　帰れば西村夫妻　竹内文吉
待合す　小酌夕食、後かるたなど
九時皆去

一月三日（水）　快晴

〔元始祭〕

午前　無為　三一の為め紙鳶など

午後三時　福田 村上二氏来 小酌 此間
*西沢仙湖来　馬轡燈 被贈
五時　土屋香葉来
夜　烏森桐の家に米斎と會す　岡田三郎助氏
十一時帰　照吉小重?梅松等　後より

【注】＊西沢仙湖…蒐集家・民俗研究家（一八六四～一九一四）。

一月四日（木）　晴曇
九時出勤　本日より執務
午後二時後出で　中与に襟巻其他又南谷にて石鹸
（景品）求め　竹芝館　新聲會新年會
に赴く　會者卅名斗り　景品福引（馬）?交換）
七時後電話にて帰宅　木村氏居合す
〔出〕新聲會　1，50
景品　，35
電切符　，95

一月五日（金）　曇
〔新年宴會〕
九時出勤
午後一時　浅艸小學同窓會（馬道浅艸小學）
に赴き　馬の尾裁判一席口演　三時後　森田町
泉谷を訪ふ不在　去て　武内により幼年画注文
五時半富士見軒　博文館新年會に臨む
七時半帰途土手三番町による　日下部兄公
岡山より昨夕帰京の由にて来訪　他に久留島
西村居合す　十時帰る
不在中「*家と女」見本出来

【注】＊「家と女」…巌谷小波『家と女』は、明治三十九年一月、隆文館より刊行された。

一月六日（土）　晴
欠勤
午前　*世界お伽第八十起艸
午後一時出で　日比氏を訪ふ不在　去て江見を訪はん
として不明　電車　川崎に向ひ直ち鎌倉
窪田氏に向はんとするに遅刻　即ち川崎
停車場前に小憩　五時十三分にて鎌倉行
七時後　窪田氏扇谷新居に着　披露宴
石渡夫婦、酒詰夫婦　平林少佐　長濱嬢
及　生田ら　十時散、余は一泊
〔出〕鎌倉行雑　*1，50

【注】＊世界お伽第八十…『金髪王女（世界お伽噺第八十編）』は明治三十九年二月、博文館より刊行された。＊1，50…先に「1，20」と記し、後「1，50」と訂したか。

一月七日（日）　晴
本日午前十時より　群口會俳筵　南岳も来合
五時十三分にて帰京　汽車極雑踏
八時前新橋着　直に桐の屋　久保田米斎居合
和田氏後より　十一時帰
〔出〕帰途費　1，20

一月八日（月）　晴
九時後出勤　世伽八十脱稿
午後一時福地桜痴居士葬送に會す　芝増
上寺　二時後帰　辻姉上子女ら来合
夕方勇、三一と頌栄女學校幼稚園視?に行く
夜女子文壇俳句選及羅馬字原稿送る

一月九日（火）　晴
*後

九時出勤
午後四時帰
夜東儀氏　文藝協會の件　隆文館関主(?)ら来
【注】＊後…右側欄外に記されている。「九時後出勤」であろう。

一月十日（水）曇（寒）＊
欠勤　終日在宿
夕方　泉谷夫婦来　光村新企画海軍雑
誌主任記者　依頼
鉎次郎本日より青山學院入舎
【注】＊（寒）…寒暖欄に印刷された「寒」の字を丸で囲んでいる。以下、寒
暖について「（寒）／（暖）」とあるのは同様。

一月十一日（木）半晴（暖）
休校
十一時出で土手三番町に赴く　母上墓参不在
後帰宅あり　三時帰途　博品館により
＊三一、三四土産求む　不在中　島、福田来
夜木曜會發會　洗鱗来　　生田一泊
〔出〕博品館　1，00
【注】＊三一、…行頭に小さく書き込まれている。後からの書き加えか。

一月十二日（金）晴風（寒）
十時出勤　戦史起艸
午後四時半より　富貴亭に赴く　島後より
小酌　遂に十一時に至る
　黒田を泉谷へ紹介す
本日東郷大将書翰表装宮川氏に依頼
〔入〕石橋より　8，00
　館費預る

〔出〕富貴亭　4，25

一月十三日（土）晴
十時出勤　日露戦史艸　恋の画葉書再版
午後四時帰る
夜　＊織田東禹来る
〔入〕恋再　60，00
〔出〕勇へ　60，00
【注】＊織田東禹…洋画家（一八七三〜一九三三）。

一月十四日（日）晴
＊午前　来訪　煙村、田代英虎、鈴木四十紹介今村氏
又国峰　此間廣瀬にフロック注文
午後　春生お和来　三時近郊散歩　竹内文来
夜無事
【注】＊午前　来訪…「午前」と「来訪」の間に一文字見えるが、削除された
と見なす。

一月十五日（月）晴
朝在宿執筆　十一時出勤
午後　鳥谷部、石橋氏と木屋に赴き羽田氏祝品
求む（菓子器）
三時帰途　築地二、二二、平岡方に杉浦姉妹を訪ふ
四時半去て　長島氏に赴キフオツク書肆拂渡ス
六時帰
〔出〕羽田祝品割　3，00
　Fock拂　4，10

一月十六日（火）晴　　＊上村入會
十時出勤　一時半青年會実業子弟招待會

午後四時帰る　　　　　出演
夜入浴、
【注】＊上村入會…右側欄外に記されている。

一月十七日（水）　晴
朝　窪田来訪　共に出で出勤
　午後二時　石橋を伴ひ　帰宅三時、盧来
　三人にて　妙花園に至り艸花求
　夕食後児女らと遊戯　九時皆々去る
【一行あき】
　不在中斎藤松子来
（出）妙花園　，５０

一月十八日（木）　晴
九時出で　早稲田　出勤
　帰途　母上を訪ふ　夕食、池田忠恕来
　地蔵信仰霊験談
七時南岳方　木曜會に向ふ　画葉
「高?」余四等
　　九時帰途につく
実印紛失を発見す

一月十九日（金）　晴夜雨後晴
十時出勤　　日露戦史
午後　五時前　聴雨窓に赴く　秋声會
　會者二十名斗り　十時　傘、下駄を求め
　　帰途に就く
（出）傘、駄　，６０

一月二十日（土）　晴　（寒）
欠勤

午後一時後　婦人教育會に赴く「火と女」、久保田米斎来
三時去て　本郷中央會堂　母の會に赴き
口演「子等に代て母に求む」　五時後帰る今夕
南岳方に紫吟社ある筈　遅刻不赴　松本に
夕食帰宅
（入）母の會　２，００
（出）松本　１，００

一月二十一日（日）　晴　（寒）
午前桜井鴎村来
母上冬生来、中食　又日下部兄姉公来
午後　久留島　土肥来　坪内士行氏来
四時赤坂八百勘　羽田氏新婚披露會に
招かる　九時帰宅

一月二十二日（月）　晴　（寒）
十時出勤
午後二時後去て　平岡方杉浦を訪ふ　五時帰る
夜無事　今夕言文一致會不参
【一行あき】
本日　改印届済
（出）勇へ　２，００

一月二十三日（火）　晴
十時出勤　　日露戦史脱稿
午後　四時帰る
　今夕　羅馬字會不参

一月二十四日（水）　雪
朝　留岡氏紹介　青木夫人山形遊戯園主、岩谷式遊戯
十一時出勤

二時平岡による　少々腹痛を感ず
五時大橋氏にヒ招　高田氏夫妻中沢
武内、小倉夫人ら同席、大橋子
女の舞踏、遂に夫人、中沢氏に及ぶ
十一時　土手三番町に投じ一泊す
　夜半より腹痛下痢
〔出〕平岡　　10，00

一月二十五日（木）　雪後晴
午前中尚横臥　早稲田欠勤
午後二時　桂舟により　大橋子女等贈品求托す
谷氏居合　　五時帰宅
夜又腹痛　横臥
本日　西沢仙湖氏　天神橋ヒ招しも不来
〔出〕大橋贈品　　1，80

一月二十六日（金）　晴
　37.5*
欠勤横臥、正午後高輪病院瀬脇氏授診(ママ)　大腸
盲腸警戒　　腹痛時々便通　　　かたる
　時に竹貫氏来訪　又和子来見舞
西村妻居合
夜　無事　　本夕兼松の招を辞す
〔入〕日戦史*　　100，00
〔出〕高輪病院　　1，50
【注】＊37.5…右側欄外に記されている。　＊日戦史…日露戦史の略記。

一月二十七日（土）　晴
37.5*
横臥　　午前高輪病院被診（*腹痛平癒
午後　紫竹来　木村来　又新兵衛来
夜　荒木来　冬生来　冬生一泊　鉒次郎
も居合　かるたなと(ママ)
〔出〕病、薬　　，40
【注】＊37.5…右側欄外に記されている。　＊（…対応する括弧は見当たらない。

一月二十八日（日）　晴
午前十時　入沢達吉氏に赴き授診(ママ)　疑似肺尖カタルの由
十二時に至る　平岡により鶏中食　三時土手
三番町に赴く　萬年居合　夕食
藤井氏来
春生と三田まで同車帰宅　辻、隠岐泰、三直
羽田の帰途とて居合す
夜　江見　廣津来　九時去る
〔出〕母上　　20，00
　入沢　　5，00

一月二十九日（月）　晴
午前在宿　　谷村佐次郎来訪
午後一時前出勤　二時半帰途枕浦を訪　遂決行
五時帰
夜　無事
〔入〕本日より俸給*　　150，00
　九州実業　　3，00
樗牛會*寄附十円
〔出〕勇へ　　150，00
　勇へ　　3，00
　高階貸　　20，00
　桐家拂*　　27，40
　樗牛會　　10，00

【注】＊樗牛會寄附十円…二行の中間（罫線の上）に記されている。＊本日より俸給…俸給が今月より百五十円に上がった。＊桐家拂…「桐の家」の支払いか。

一月三十日（火）　晴
【孝明天皇祭】
午前来訪　勢子、大岡兄弟及他一生
窪田来
食後　二時半窪田氏と共に　白人會（富貴亭）に赴く　會者八名　九時窪田氏と共に帰宅
同氏一泊
〔出〕白人會　　1，90
　　同景品　　　，23

一月三十一日（水）　晴
午前九時窪田去る
十時出で歩て薩摩原に至る　芝勧工場にて茶筆筒求め　それより　風月堂食事　都筑氏　鈴木四十及本田鄭介に會　それより出勤　福田来
四時帰
夜土屋来
〔出〕茶だんす　　13，80

二月一日（木）　曇　夜雨
午前在宿　學校芝時計の罪起艸＊
十一時出で　一寸　本町により　午後二時後文部省に芳賀氏を訪ふ　書状ありし故也
国定教科書編纂嘱托の件　渡邊国書課長にも會す　四時帰途　平岡により
五時後帰　　黒田待合　神戸の件語合？
夜　木曜會[redacted]久留島　金子のみ

【注】＊學校芝時計…正しくは「學校芝居時計の罪」か。二月三日の記も参照。

二月二日（金）　曇
終日在宿　執筆　　本日電燈工事
午後　長田秋濤＊来、又辻宣代？、お登代を案内して来る
夕方福田来　文部省嘱托助手の件打合
食後去る
【注】＊長田秋濤…翻訳家（一八七一～一九一五）。

二月三日（土）　晴
午前在宿　學校劇時計の罪脱稿
生田来、正午前　秋月復郎　三夕菴を伴ひ来
午後出勤
四時荘司斬髪　湖月に向ふ　木曜會解剣新兵衛歓迎　嘯羽送別會々者　十八名
十時帰　生田一泊
〔出〕木曜會　　10，00
　　荘司　　　　，75

二月四日（日）　晴
朝九時十一分生田と共に　横須賀に向ふ　新兵衛同車　横須賀　十二時前着　山の内により、石渡氏出迎　中食　後豊島學校児童會に赴く（佐藤不動發企）お伽噺會佐藤、吉田一[redacted]、窪田、久留島及余（馬尾裁判）出演
四時三五分　長濱嬢と共に　鎌倉に赴き同嬢方に夕食ヒ饗　後　窪田氏方に赴き新兵衛と共に一泊
〔出〕横須賀行　　2，10

二月五日（月） 晴
午前　窪田、生田、新兵衛と大佛まで散歩
十二時六分發帰京
平岡により夕食　六時後帰宅　△
〔出〕平岡　１０，００

二月六日（火） 晴
午前在宿　日比氏来訪
＊世伽八十一艸
午後出勤　四時帰途一寸平岡により五時後帰
【注】＊世伽八十一…『新塞翁（世界お伽噺第八十一編）』であろう。

二月七日（水） 晴
午前在宿　世伽八十一脱稿
午後一時出勤
午後　三時　玉宝堂に斎木氏の案内　但し不在
直に石橋氏初午會に赴く　水、桂、
廬（？）、柳、九、眉等同席夕食　後
合作書画　十時後帰
〔入〕窪田より　１０，００
最近海軍
コンミツシヨン
〔出〕石橋ガラ　，９０
〜持参

二月八日（木） 晴
午前　在宿
十二時早稲田出勤　四時帰途母上を訪ひ
夕食後　大田方　木曜會画葉會
九時後帰宅
〔出〕博文館印刷　８，６０

葉書名刺代　△＊
【注】＊△…「△」に見える記号（？）が出費を記す欄（往訪欄）の下方に記されている。二月十日も同様。

二月九日（金） 雪
在宿及終日
朝古洞来ポンチ持参
今夕　木沢氏招待三河屋ニ赴く筈なりしも
大雪厳寒ニつき謝絶

二月十日（土） 晴
午前十一時出勤　途に一寸平岡による主人在宿直に去
午後一時　三冝亭　活東忌に臨む、俳人としての
活東口演其他　逸話各自談ず
六時帰途　三越流行研究會に臨む、八時
帰途田屋にて香水求む
〔出〕大金車代　３，２５
半車分
香水　２，２５　△

二月十一日（日） 晴午後曇
【紀元節】
森鴎州来　俳句選評依頼
今村幸男来後より妻君子息
正午春生冬生相次で来
一時後　麻布中學に赴く　文學會臨席
口演　独乙決闘談　四時帰

二月十二日（月） 曇
午前　早稲田文學の為　極楽島起艸
婦人世界　高信氏来口述

午後一時半出勤　四時帰
〔入〕中学　3，00
　麻布中学口演料　5，00

二月十三日（火）　晴
午前執筆
十一時出勤
午後二時平岡に赴く（羽織件）六時帰途
壺屋食事
〔出〕壺屋　，75

二月十四日（水）　晴
午前　早稲田文學原稿脱稿送る
　一時出勤
*四時帰途　　三越楼上に廬、
水野と待合ス（井関氏接待）
五時後廬と三木屋食事後一人三宜
亭ニ赴き　喜劇誕生日稽古を内見す
　十時帰宅
　井上大源夫人よりの贈品ピン廬より落手
〔入〕少年臨時　60，00
〔出〕勇へ保険料　25，00
　三木屋　2，00

【注】＊四時帰途…ここから次行の「三越楼上に廬、」の前までの間に削除された文がある（前日の内容、即ち「平岡に赴く～壺屋食事」の部分、但し「六時」は「五時」となっている）。

二月十五日（木）　晴
午前十時　芝教會　*原胤昭氏男萬胤
氏（四才）葬儀ニ列す
早稲田出勤　四時帰途一寸三番町
に立より　五時帰宅
福迫亀太郎氏永富氏と共ニ待合す
明治女學校科外講演の件
夜木曜會煙村不来　九時散
〔出〕永富氏　1，00
　東北義捐

【注】＊原胤昭…社会事業家（一八五三～一九四二）。

二月十六日（金）　晴
午前　文藝雑録艸、送
午後一時半　日比谷公園　第二陸軍歓迎會
に臨む　三時去て　文部省芳賀氏
を訪ひ履歴書渡す
四時　帰途　表神保町大久保ニ靴求メ
有明館ニ堀江を訪　皆（ママ）楽園に共食
七時後別れて明治座見物
モンナ、ワンナ、玉手箱　十一時帰
〔出〕靴ニ種　5，30
　偕楽園　9，30

二月十七日（土）　快晴
午前在宿
午後十二時半品川より汽車　新橋に向ふ
木戸氏西行を送らん為なりしを行き
ちがふ　それより紅葉館　*文藝協
會發會式ニ赴く
余　新話術試演　極楽島
十一時半　演了
〔出〕文げい協會　2，50
　紅葉にて　，30

車代其他　，80

【注】＊文藝協会發會式…式の様子は、内藤鳴雪「文芸協会の発会式」（『老梅居雑著』俳書堂、明治四十年五月）が詳しく伝えている。小波の「新話術試演」については、「落語者流の厭味もなく、弁士風の気障もなく、ドコまでも淡泊で、無邪気で子供らしい声気は、僕大いに歓迎した」云々とある。

二月十八日（日）　晴
三一、三四浅艸に遣はす
十時　勇と蒲田梅園より大師に赴く
梅園食事　二時帰途余のみ
江見を訪ふ　四時帰
〔出〕梅園中食　3，00
　電車代　，50
　三一へ　，50

二月十九日（月）　晴
午前　少年分艸　十一時出勤
午後二時　清方に赴き　画報注文
三時平岡　△
五時後帰　辻氏待合す、父上遺
稿の件　九時去る
〔入〕貯より　40，00

二月二十日（火）　雪雨
午前　女學原稿艸
十二時出勤
午後　三時後　外務省に水野領事を
訪ふ（＊橘三郎氏と邂逅）五時同氏より永田
町の宅に招かる　夕食、廬も後より
閑談　十一時帰途ニつく

〔出〕呼吸器其他　，70

【注】＊橘三郎…歌舞伎俳優の嵐橘三郎か。

二月二十一日（水）　雨
午前在宿　百科事彙訂正
一時出勤
三時後平岡による　五時後富貴亭
お伽倶楽部相談會、久留島主■
柳原伯、東儀（窪田欠）及余
十時帰（別席福田、村上居合）
△
〔出〕勇　10，00

二月二十二日（木）　曇
午前十一時出で　土手三番町ニ赴く　中食　三四来
二時後去て　平岡ニ赴き　△　六時新兵衛方
木曜會夕食　九時帰

二月二十三日（金）　雨
午前　十時出勤　少年校正
三時帰宅
夜執筆　地震あり

二月二十四日（土）　曇
午前　平林来幅代渡ス　強震あり
十二時後出勤
二時山本留次氏を訪ひ　依田翁を訪ひ
父上文稿校閲依頼　三時後三宜
亭ニ赴く　麥人催し俳會、選
六時帰途橋善食事
夜　＊莚升＊團子来

午後三四時の間大震の説ありしが不来
〔出〕平林へ　10，00
　橋善　，38
【注】＊夜　莚升團子来…この行は二行にまたがり記されている。＊莚升團子…歌舞伎役者の市川莚升（のちの二世市川左団次）と市川団子（のちの二世市川猿之助）。

二月二十五日（日）曇
午前十時　竹芝館其角忌に赴く　展覧會
午後口演竹冷、残花　余開會の辞
別席に　和田、＊米卆氏と白人句集打合
夕食後　桐の屋　十時半帰
〔出〕[redacted]別　2，36
　其角忌　1，00
【注】＊米卆…「米斎」と同じ。

二月二十六日（月）曇
午前より出勤
午後斬髪　二時後平岡　六時帰
【一行あき】
本日コンノート殿下日比谷歓迎會大名行列あり
〔出〕門　10，00
　斬髪　，75

二月二十七日（火）雨
午前　＊世伽第八十二木馬起稿
午後出勤　四時帰宅
【一行あき】
今日　文部省より
　国語教科書編纂事務ヲ嘱托ス
　　同手当八十円
辞令来着
〔入〕文藝　11，00
　女子　6，00
　俸給　150，00
〔出〕弁当先月本月　3，00
【注】＊世伽第八十二木馬…『木馬物語（世界お伽噺第八十二編）』であろう。

二月二十八日（水）雨風夕晴
午前　世伽第八十二木馬脱稿　生田来訪
午後出勤
三時後文部省出頭　渡部課長吉岡學士
と打合せ　去て　辻氏に赴く女子出生の賀
四時去て　土手三番町ニ赴く　食後
七時帰宅
〔入〕早稲田　24，00
　国書引三月分
〔出〕生田立替　15，00
　母上へ　20，00

三月一日（木）晴風
午前　文章世界艸　又幼年臨時原稿送る
十一時出勤途水谷幻花の来訪せんとするに會す
電車中談話
早稲田出勤　五時帰
夜木曜會
〔入〕　＊3，00
　早稲田文学　20，00
【注】＊3，00…入金元の記載なし。

三月二日（金）曇
午前有本来　又横濱西崎夫人来　来廿四日

力行慈善會出演の件」[*] 東儀へ紹介
午後出勤
三時平岡ニ赴く門初不在後帰宅但し不快
五時後去て　新喜楽へ赴く大橋氏
東亜公司招待、水野領事　余陪席
柿沼山本祖[?]山 同席　十時帰宅　杉浦文方
[*]初節句ニより喜楽菓、料理を置キ帰る

【注】＊」…カギ括弧（閉）に見えるが、対応する〈「〉は見当たらない。
＊初節句…小波と紋の間に女児が生まれていた。

三月三日（土） 雪午晴
午前　今夕羅馬字演説會稿艸
正午水谷来　撮影幼年臨時口画
夕方散歩　　　武内へ白酒
今夕　三直　鉎次郎来泊
青年會館羅馬字會出席断り原稿
を送る

三月四日（日） 晴
朝俵万[?]平来　俳画求ム
九時十分品川發　酔香、百樹、盧心、南亭
世音らと鎌倉ニ向ふ　十一時半着
小町園ニ投じ中食　此間生田
長濱来訪　一時空々方白人會
犀水、麦人を加ふ
午後九時後散　百、酔、世らと小町園ニ
一泊
〔出〕鎌行　　,85

三月五日（月） 晴夜雨
九時十一分發帰京　百樹、世音及酔香息
車中石渡氏と會、大森ニテ汽罐故障
即　電車で帰る　帰宅中食
午後二時　出勤　電話ニて済まし
平岡を訪ふ不行[?]　六時後　武内氏
東洋子初節句ニ招かる　硯友社中
欠水蔭、桂舟發熱中座
十時　傘下駄を求め帰宅
〔出〕小町園　　17,45
　　汽　　　　,95

三月六日（火） 晴
九時　文部省出勤　尋常読本
方針　協議會
渡部議長、御園生視学、保科、吉岡
森岡、笠原、高野
四時帰途　上野三橋鈴木ニ隠岐注文
時計、鎖、及鎖さげ　求む（二百円）
六時帰　お登代ら居合
〔入〕文部省先月分　　2,84
　　日割
　■幡大尉束修　　3,00
〔出〕勇へ　　3,00

三月七日（水） 晴
朝長田来　大島宝水来「紫」の為談
十一時出勤
午後三時平岡による△　六時帰

三月八日（木） 晴
午前
早稲田出勤　四時帰途　土手三番町

立よる　六時後春生と　宮川春汀方
木曜會、此間横浜西崎夫人ら来
二十四日力行會慈善會中止
十時後帰
【一行あき】
十四日歌舞伎座行を決す

三月九日（金）　快晴
午前十時出勤
十二時二十五分　両国發向銚子　江見
忠功氏朝鮮行送別會　社中
思、廬、眉、柳及余　松岸津国屋
より開新楼一泊
【三行あき】
自本日春気催す

三月十日（土）　晴曇
十時舟にて銚子に向ひ　飯沢観音
より車にて　暁鶏館に向ふ
囲碁、玉突など　柳今日午後帰
余等電報て（ママ）一泊を東京に通ず
夜花戦
〔出〕花戦－2'16　　２，１６

三月十一日（日）　曇午後雨
午前十時五十分發帰京
四時　両国着　廬、思と西沢氏
方雛人形見物　七時帰宅
　　快△
〔出〕銚子行　　１０，００

三月十二日（月）　晴
九時後出勤　日露戦史凱旋巻起艸
三時半　文部省懸賞進取歌審査
會に臨む　上田、坂、佐々木、森岡、渡部
吉岡及余
四時後帰途　土手三番町　冬生居合
　　食後帰
60 aus　九時

〔入〕幼臨　　１５，００
　文世　　７，００
　中学　　１３，００
〔出〕常陸山會　　３，５０

三月十三日（火）　晴
九時文部省出勤
午後二時半杉浦△五時後帰　入浴後△

三月十四日（水）　晴
午前執筆　西彦夫人来　食後去
午後二時半勇と　歌舞伎座、越前屋
より見物　母上、日下部兄姉公、春生、和子
及辻しげ代　同児（文部被嘱の祝）
片岡十蔵出勤泉三郎、及凱旋土産
奴道成寺、十時帰宅
〔出〕越前屋　　１９，７５
　茶代　　５，００
　男女　　２，００

三月十五日（木） 晴風

朝　福島教育會木村牧氏来　義捐出版の件
大橋氏へ紹介
太陽の為エルンスト訳す　午後久留島来 中食去
夕方大下来
夜木曜會　煙村、湖山二名のみ、
　本日市民大會　電車値上反対運動

三月十六日（金） 晴

九時出勤　戦史艸　泉谷来訪
二時後杉浦ニより　四時後帰
六時半　三縁亭エルロン招待會に赴く
兼松　有田、大村、盧、泉谷及余
十時帰入浴
〔入〕盧より鎌倉割　3，00
〔出〕三縁亭割　8，50

三月十七日（土） 晴

午前出勤　戦史艸
午後一時　青年會館　お伽倶楽部
第一回に臨む（岩溪氏来談）
柳原伯、野村中佐、笹野校長、及余
（イスランド三男の場）の話）東儀氏唱歌　四時帰途
依田翁を訪ふ
辻三直来泊　明治母の會原稿送る

三月十八日（日） 快晴

午前来訪　渡邊修三郎、木村牧、高島
平三郎、桜井義肇、西松二郎氏紹介高木
文三郎（足尾鉱山員）及西村粂蔵
午後一時後勇三四と西彦に赴きお召
浴衣地求　帰途通三丁目清水洋帽店ニ
三四子洋帽注文
夕方牧野望東来　其角原稿送
〔出〕東電三十回　，95

三月十九日（月） 晴

朝　平林来　幅代拂
文淵堂金尾来　家庭口演出版の件
十一時出勤　文藝艸
三時築地に赴き　木挽町に向ひ後又築地に會す
七時共に四谷蓬莱亭食事　築地に送る
十時帰る
【一行あき】
久留島チフスにて入院の報あり見舞遣はす
〔出〕蓬莱亭　2，50
　平林　5，00
　久留島　2，00

三月二十日（火） 晴

九時文部省出勤　読本會議
午後二時後　本町により四時帰

三月二十一日（水） 陰晴暖

【春季皇霊祭】
朝日比氏来　少年原稿艸
九時後日比氏に赴く　久保田、執行来
共に　益田氏方大師會に赴く　園遊會
午後一時　久保田　和田英作二氏を伴ひ
帰宅　三時去
四時荘司斬髪　土手三番町に赴き
七時帝国ホテル　エルロン氏招待晩餐會

に赴く　大村、廬、有田、尾野、小島
兼松の他　独乙人ら　十時帰途木挽町
杉浦により帰る
〔入〕米𡙇分返　　3，00
〔出〕荘司　　　　，75

三月二十二日（木）　曇寒
午前戦史艸　　十時後出　泉岳寺まで歩
早稲田出勤　　午後三時半　文部省
懸賞進取歌　審査會　　夕食　後坂氏
と新橋まで同車し帰宅

三月二十三日（金）　陰晴　（寒）
午前出勤
午後二時平岡を訪不在　即ち去て木挽町杉浦を訪ふ
四時　代地深川亭ニ赴く水鳥會
廣業、丹陵、清忠、西沢、米𡙇、岡田
鹿塩ら、　十時帰
　米𡙇と　扇形古函を千里閣印刻料
　と交換を約す
〔出〕火災保険拂込　　10，00
　　水鳥會　　　　　4，00

三月二十四日（土）　雨後晴
　*濱田四郎氏来共に出づ
午前　海軍原稿　黒田へ送る
午後一時エルロンを帝国ホテルニ訪ふ不在　洋行土産贈
去て　本郷中央會堂に赴く
少年動物愛護會第一回　口演
高島、ロイド博士らと共ニ余も一席
五時帰る

夜　日本新聞原稿送る　六千号祝
【注】 *濱田四郎氏来共に出づ…右側欄外に記されている。

三月二十五日（日）　曇
午前十一時　西沢来馬持参、又小形骨董品
同氏に贈る　食後去る
二時勇三一、三四と　銀座伊勢幸ニ
三四洋服注文 後 平岡を訪ふ不成（ママ）
帰途品川ホールに食事
〔出〕夕食　　　　，80
　平、枕、門　　10，00

三月二十六日（月）　晴　（寒）
午前十時出勤　　凱旋の巻脱稿　四時帰
本日　大町、国府二氏解職の件坪谷氏より
ヒ相談　　横田地（?）より100‖又内山氏へ*笑の国原稿
依頼
大坂傳道會社寄附申込
〔出〕傳道會社　　1，00
【注】 *笑の国…巖谷小波『笑の国』は明治三十九年七月、博文館より刊行された。

三月二十七日（火）　曇
文部省出勤
四時帰途　築地に赴き100渡す、五時後帰宅

三月二十八日（水）　晴　（暖）
朝浅田来入館の件
十時出勤　　三時築地行快通　六時花月
に赴く　日比氏留別　三越の招待十時帰　△
〔出〕勇に　　8，00

三月二十九日（木）　曇
早稲田出勤　四時帰
夜　木曜會　南、夾及紫
　西村兄条三、新宿轢死の報を聞　直に木佐
　を悔みに遣はす
〔入〕早稲田　　　２８，００
　　二円国書引
　太陽葵分共　　　３０，００
〔出〕竹貫氏へ香奠割　　２，００

三月三十日（金）　雨曇
十時出勤　百科字彙分100
午後三時　母上を訪ふ　瀬口居合
六時後　青年會に赴く　鈴木寿催し
青年學術演説會　余苦学、楽学
其他マグレガア、和田垣、中島半次郎氏
九時帰途　木挽町杉浦を訪ふ　100渡ス
　高輪宅決定のよし　十時後帰
〔入〕俸給　　　１５０，００
〔出〕母上へ　　　３０，００
　勇へ　　　　１００，００
　羅馬字　　　　　３，００
　鈴木へ訳代　　　５，００

三月三十一日（土）　晴
九時出勤
午後二時女子英学塾卒業式ニ招かる
大山侯*夫人　新渡邊夫人ニ初會
三時後　日下部兄公を訪不在姉上と
語り去て辻姉を訪ふ　六時帰*
夜生田来

〔出〕三四洋服　　１５，００
　中与　　　　　１，５０
　弁当　　　　　３，００
　カバン　　　　４，００
　東郷書翰表装　　４，５０

【注】＊侯…原文の文字は人偏がない（旁のみ）。　＊六時帰／夜生田来…この
　箇所は二行にまたがり記されている。

四月一日（日）　晴曇
午前　十時入沢氏に赴く　坪谷氏と同刻被診
体量十三貫八百〆*（三百〆増加）
帰途風月に赴く満員　即采女亭食事
美の常買物　二時白人會　富貴亭
々者十三名　帰途　米巒、箕作、宮本
と台湾茶店ニより　後米と桐の家に赴く
和田居合　　十一時帰
〔入〕　　　　　６０，００*
〔出〕みの常　　　６，００
　白人會　　　　２，５０
　采女　　　　　，７０

【注】＊〆…「匁」の意であろう。十三貫八百匁は約五十二キログラム。
　＊６０，００…入金元の記載なし。

四月二日（月）　晴
九時出勤　中學、女學、笑の国150
午後　文部省出勤　三時築地行 ◯ 六時竹芝
館　大町、国府、勝間退館送別
金子、大田、石坂入館歓迎會に赴く
九時帰る

四月三日（火） 晴

【神武天皇祭】

朝日比氏を訪ふ不在　今村氏を訪ふ
十時帰る　辻氏来　　　生田来
十一時　久保田米鳰来　食事
一時後　水野、盧来　次て窪田来
五人にて　妙華園　後　川崎屋食事
九時帰

〔出〕川崎や　　　１１，００

四月四日（水） 晴

朝八時半　日比氏一行洋行を新橋に送る
それより鞆絵屋帽子求め　出勤
十一時後　上野鈴木に勇の時計求め
十二時後　木挽町杉浦後皆々にて緑屋
食事　盧を招き紹介　三時土手三番
町に赴く　青木氏居合　五時半帰
夜春生来
　十時十一分品川發　向水口、

〔入〕旅費　　１８０，００
　　　　　他　５０（?）

〔出〕時計　　５６，５０
　　杉追加　　５０，００

四月五日（木）〜十三日（金）

※この間、旅行により記載なし。「手帳」（翻刻を別途発表予定）参照。

四月十四日（土） 晴

午前九時品川着　無事帰宅
午前一睡　　入浴
一時出で車町に一寸より土産おき　直に青年會
館お伽倶楽部に赴く　口演ライン*の洪水
五時帰途車町夕食　十時帰

〔入〕文部省懸賞歌選　　２０，００
〔出〕春姉債返　　　　　１５，００
　　門へ新渡し　　　　　１０，００

【注】 ＊ラインの洪水…巖谷小波『お伽口演』（博文館、大正元年）所収の「附録『犬の媒介（なかだち）』の説明に、「是は、独乙で有名なシュワーブの物語集に、ラインの洪水と題してある話で、（中略）曾て或所で口演した物の筆記である」とある。

四月十五日（日） 晴

朝三上太一郎（元早稲田生）来
十時半　泰明學校女子部同窓會に赴き
口演（男の裁判）　十二時風月食事
後　荘司散髪
二時後　三井同族會家庭會に赴く　三井
集會所　一族子弟の為に口演（樽の七郎）
四時　三番町に赴く　弁兄*、冬生ら
居合す　京都分支拂渡母上　夕食
八時半帰途　車町による不在
　　　　　　　　九時半帰△

〔入〕久留島お伽くらぶ　　５，００
〔出〕母上へ京都分拂　　２８，７４
　　荘司　　　　　　　　　，７５
　　勇へ　　　　　　　　５，００

【注】 ＊弁兄…次兄の日下部弁二郎であろう。

四月十六日（月） 曇夜晴

自本日出勤　新編輯局
　斎藤髙波来訪
午後二時　築地を訪ふ不在　木挽町に赴く

二人ニ會す　五時帰る
夜　車町ニ赴く　清談十時帰
〔入〕中学 画報 女學　２５，００

四月十七日（火）　曇雨
九時後出勤　文部省　読本二起艸
午後四時帰　三越、流行會に赴く
楯氏への祝品送る　又兵子帯求
此間六時　新橋停車場ニ　水野領事
を送り又　加藤と會し　壺屋ニ小談
再び三越に帰る、九時半帰宅
〔入〕三井同族會　１０，００
〔出〕兵子帯　１，６０
　楯へ祝品　２，５０
　壺屋　２８

四月十八日（水）　晴風
九時出勤　不在中母上来駕の電話あり
午後一時　母上を訪ふ不在未帰宅　即桂舟を訪ふ
大橋夫人来合　二十二日園遊會の件
再び　母上を訪ふ冬生居合　又斎藤仙太郎来合
去て　日下部翁を訪ふ　帰途車町より
平岡夫妻来初會小酌（九時去）十一時帰

四月十九日（木）　晴
朝東儀紹介　水戸検事井上来
十時一寸　車町ニより早稲田出勤
四時帰宅
夜木曜會　此間　山崎文科生来
　画葉
〔出〕門へ机代　５，００

四月二十日（金）　晴
九時出勤　世伽八十四艸*
三時帰　辻姉 西村妻居合
四時加藤来　五時出で風月堂
食事　銀座散歩買物　九時別れ
車町より　帰る　十時
〔出〕風月　２，３０
　文房具　１，９５

【注】＊世伽八十四…『三ツの王冠（世界お伽噺第八十四編）』であろう。但し、四月二十五日の記には「世伽八十三艸」とあり、順序が入れ替わっている。

四月二十一日（土）　晴
九時出勤
午後一時　婦人教育會に赴く「趣味性」麻生氏の
欧米視察談
四時帰宅
夕方一寸車町不在　冬生来　一泊

四月二十二日（日）　曇風
朝鹿又来
十時出で　土手三、母上を訪ふ　使を羽田氏に遣はし軍
服借入しむ　大橋氏園遊會假装の為也
十二時大橋氏稲荷祭園遊會に赴く
嬢等手踊　茶番、狂言　假装行列など
六時一寸母上ニより　それより車町〇十時後帰

四月二十三日（月）　雨風
九時出勤　文藝艸
午後一時　角田氏近火見舞　昨夜猿楽町出火百戸
斗焼失の由　氏病中　見舞果物届けしむ
四時帰

〔出〕果物　1，70

四月二十四日（火）　晴

九時文部省出勤　読本一艸

帰途平岡ニより主人ニ會　六時?

乗車　所■久?保田を訪ふ

十時帰る（朗読のみ）50‖

〔入〕文部　80，00

四月二十五日（水）　曇

九時出勤　世伽八十三艸*

四時加藤来　石橋と三人にて出づ

偕楽園夕食　為加藤、岡田、

及廬来會　九時半帰

〔出〕偕楽　30，00

【注】＊世伽八十三…『馬の首（世界お伽噺第八十三編）』であろう。

四月二十六日（木）　曇夜雨

○*

出勤　途乗車　早稲田

帰途　母上を訪ふ　冬生来合

夕食後　木曜會の筈　天気悪く

見合せ　帰宅

■所　門へ行

■門三歳遂占門泉岳門前構小門??

忽楽秘事泄?門連妬雨一夜叩閨門

【一行あき】

向井より大坂選書會依頼扇子短冊　2'00

〔入〕早稲田割引あり　26，70

〔出〕母上へ　30，00

【注】＊○…「車」の右側欄外に小さく記されている。「○」ではない可能性も。

四月二十七日（金）　曇

朝　夜来の妬雨

九時半出勤

五時帰　夕食後　加藤の帰西を

新橋ニ送る　廬と會合

乗車　十一時帰る

四月二十八日（土）　曇

九時出勤

午後一時　上野太平洋画會及巴會見物

三時　平岡を訪ふ不在

四時帰

〔入〕　150，00*

〔出〕　150，00*

亀■　，75

竹芝會費　1，50

【注】＊150，00…入金・出金とも、名目の記載なし。

四月二十九日（日）　曇

午前　山中大岡来ポンチ　生田来

猪ヶ谷不美男氏来　沢田来子供博覧會出品の件

午後二時出で　勇、三一の歯医に赴くニ同行

余は麹町郵便局に紀念葉書 印紙求め

日下部氏を訪　金三郎夫婦も居合　四時土手三番町

辻氏冬生居合　後瀬口来

五時後冬生と三河屋食事　武田隣席あり

八時帰途一寸車町ニよる　二三日来の事を語る

彼大に感激す、九時帰る

今朝より内君更に悟脱する所あり喜色満面信仰開一生面妙

四月三十日（月）　快晴

朝五時就床
青山凱旋大観兵式陪観　盧氏紹介吉田■より大長
楼上にて之を観る　Mon同行　吉田方中食　三時出で
廣尾まで電車後歩　帰乗車、
夜無事